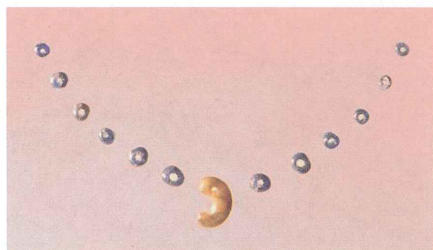
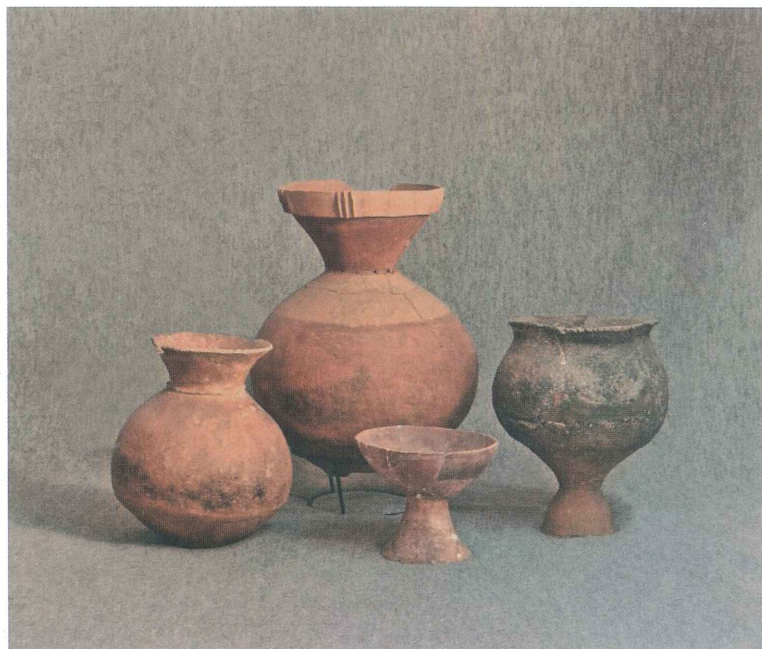


和田堀公園・大宮遺跡方形周溝墓出土遺物



〔指定年月日〕昭和五七年一月一日
 〔種別〕有形文化財（考古資料）
 〔名稱〕和田堀公園・大宮遺跡
 方形周溝墓出土遺物
 〔点数〕一九点
 〔所有者等〕杉並区教育委員会
 〔所在地等〕大宮一―二〇―八（郷土博物館内）
 大宮二―三―一（大宮八幡宮内）

和田堀公園・大宮遺跡方形周溝墓出土遺物

本資料は、土器六点、勾玉一点、ガラス玉二点である。

三基の方形周溝墓は昭和四四年（一九六九）に発掘されたもので、今から一六〇〇年ほど前の弥生時代末の首長クラスの墓地と考えられている。

墓内出土の土器は弥生時代後期の土器としては彩色と精巧な施文を有する点で、当該期のなかでも成熟した文化を示すものである。

これらの土器は方形周溝墓との関連から、弥生時代の地域性（善福寺川という小河川流域の独自の発展）と弥生時代の社会的発展段階を論じる際に欠くことのできない資料であり、遺存状態が良好なこと、区内では数少ない完形土器であることなどを考慮すれば、第一級の資料といえるものである。

また、土器と同時に出土した玉類は、墓の主体部付近から出土しており、被葬者が生前に着用していたままで埋葬されたものと考えられ、当時の習慣、風俗、そして被葬者の政治的地位をもうかがわせてくれる資料である。

【文化財所在地】

